学校名:江戸川区立南葛西第三小学校

教科 国語 学年 第1学年

			単	元のまとまりの評値	
単元名	時数			思考・判断・表現	取り組む態度
なかよしの き	4	□挿絵を見ながら気づいたことを話し、話を想像しながら物語を楽しむとともに、国語学習への関心や意欲をもつ。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(I)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢やロ形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(I)イ□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(I)イ□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(I)オ□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(I)カ	形,発声に注意して話している。	において,場面 の様子や登場人 物の行動など,	○進子動大学も想と を受な体習っを想と の物内 通容合 の物内 通容合
たのしい いちにち	2	◇学校生活のさまざまな場面の挿絵をもとに、挨拶の言葉を考え、場面に合わせた挨拶ができるようにする。 △言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。 ⇒知技(I)ア △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒◎知技(I)イ ◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。 ⇒思判表 A(I)ア ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表 A(I)ウ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表 A(2)ア	形,発声や発 音に注意して	聞くこと」にお いて, 伝えたい 事柄や相手にた じて, 声の大き さや速さなどを	○積極的に姿勢 や発言の発言の発言の ででである。 である。 である。

わたしの なまえ	2	◇自己紹介の場面の挿絵をもとに、話し方や聞き方について話し合い、言語生活を広げる。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 →◎知技(1)イ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。→◎思判表A(1)ウ ◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。 →思判表A(1)エ ◇紹介や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。 →思判表A(2)ア	形,発声や発 音に注意して	○「話すこと・ 聞くて、 がまと、 がでは でで でで で で で で で で で で で で で で で で で	や口形,発声や 発音に注意し て,学習の見通 しをもって名前
おはなし たくさん ききたいな	2	△さまざまな本の読み聞かせをとおして、読書への関心を高める。 △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表 C(2)イ	○読書に親し み,いろいろ な本があるこ とを知ってい る。		○積極的に読書 に親しみ,学習 の見通しをもっ て感想を発表し ようとしてい る。
こえの おおきさ どれくらい		◇挿絵をもとに,場面に応じた話し声の大きさを意識する。 ◇伝えたい事柄や相手に応じて,声の大きさや速さなどを工夫すること。 ⇒◎思判表A(I)ウ ◇紹介や説明,報告など伝えたいことを話したり,それらを聞いて声に出し て確かめたり感想を述べたりする活動。 ⇒思判表A(2)ア		○「話すこと・ 聞くこと」に いて、伝えたい 事柄や相手に大き で、速さなどを	発音に注意して, 学習の見通 しをもって話そ
かいて みよう	3	△正しい鉛筆の持ち方,正しい姿勢に気をつけて線をなぞったり文字を書いたりする。 △長音,拗音,促音,撥音などの表記,助詞の「は」,「へ」及び「を」の使い方,句読点の打ち方,かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また,平仮名及び片仮名を読み,書くとともに,片仮名で書く語の種類を知り,文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ △姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。 ⇒知技(3)ウ(7)	○平仮名を読 み,書いてい る。		○進んで平仮名 を読んだり書 たりしそう を書こうとして いる。
こえを あわせて あいうえお	I	◇「こえを あわせて あいうえお」を、姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意してはっきりした発音で読む。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(I)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(I)ク ◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。	○語のまとま りや言葉の響 きなどに気を 付けて音読し ている。	○「話すこと・ 聞くことましている。 までは、 事柄で、 はて、 でで でで でで でで で で で で で で で で で で で で で	や口形,発声や 発音に注意し て,学習の見通 しをもって音読

あいうえお	1	△母音や簡単な平仮名の読み方、書き方を理解する。	○音節と文字		○積極的に姿勢
a) v ·) / L a)	'	口では、同年は十成石の配のがり、首とりと呼呼りる。	との関係、ア		や口形、発声や
ļ		 △音節と文字との関係,アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとと			発音に注意し
ļ			る語の意味の		て、学習の見通
ļ		△長音, 拗音, 促音, 撥音などの表記, 助詞の「は」, 「へ」及び「を」の			しをもって声に
ļ		位い方, 句読点の打ち方, かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で			出して読もうと
!					
		使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語			している。
ļ		の種類を知り, 文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(I)ウ	形、発声や発		
みつけて はなそ	3	◇挿絵から見つけた話題にそって話し,相手の話題に対して,簡単なことを尋	○言葉には、	○「話すこと・	○積極的に互い
う、たのしく きこ		ねたり、応答したりする。	事物の内容を	聞くこと」にお	の話に関心をも
う			表す働きや,	いて、互いの話	ち、学習の見通
ļ		△言葉には,事物の内容を表す働きや,経験したことを伝える働きがあるこ	経験したこと	に関心をもち,相	しをもって尋ね
ļ		とに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア		手の発言を受け	-
		◇身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事		て話をつないで	
ļ		柄を選ぶこと。 ⇒思判表 A(I)ア	気付いてい	いる。	る。
ļ		◇互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。 ⇒◎思判			30
,		表A(I)才			
かき、かぎ	2	△清音と濁音,半濁音の違いを理解して,正しく読んだり書いたりし,主語	○長音 拗	○「書くこと」	 ○積極的に濁
, , , , ,	_	と述語の関係や文の終わりに句点がつくことを理解し、正しく文を書く。		において、語と	
ļ		とこれの対象が、人の歌が、人にもなって、ことを上げる。 正して人を目で。		語や文と文との	
ļ		 △長音,拗音,促音,撥音などの表記,助詞の「は」,「へ」及び「を」の			方を理解し、学
ļ		位い方, 句読点の打ち方, かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で			習課題に沿って
ļ		使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語			簡単な文を書こ
ļ					
ļ		の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ	「を」の使い	るように書き表	うとし (いる。
ļ		△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(1)カ	方、句読点の	し方を工夫して	
ļ		■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるよう		いる。	
ļ		に書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(I)ウ	して文や文章		
ļ			の中で使って		
ļ			いる。また,		
ļ		判表 B(2) ウ	平仮名を読		
ことばを あつめよ	2	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき,つながる言葉を	○身近なこと		○進んで身近な
う		考えて読んだり、書いたりする。	を表す語句の		ことを表す語句
			量を増し、話		の量を増やし,
		△長音,拗音,促音,撥音などの表記,助詞の「は」,「へ」及び「を」の	や文章の中で		学習の見通しを
		使い方, 句読点の打ち方, かぎ (「」) の使い方を理解して文や文章の中で			もって読んだり
		使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語			書いたりしよう
		の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(I)ウ	には意味によ		としている。
		△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉に			
			まりがあるこ		
		⇒◎知技(1)オ	とに気付き、		
		→ ⊗ \~1X (1 \ / \4	C 10 X(13 C)		

くまさんと ありさ んの ごあいさつ	□登場人物の様子を考えながら、楽しく音読する。 △丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。 ⇒知技(I)キ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(I)ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表 C(I)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表 C(I)エ	りや言葉の響 きなどに気を 付けて音読し		○進んで場では がよいで場ででは でででする。 でできるができる。 でできるができませる。 でできるができませる。 でできるができませる。 でできるができませる。 でできるができまする。 でできるができまする。
ねこ、ねっこ	△長音,拗音,促音,撥音などの表記,助詞の「は」,「へ」及び「を」の使い方,句読点の打ち方,かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また,平仮名及び片仮名を読み,書くとともに,片仮名で書く語の種類を知り,文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(I)ウ	音音記「「「方打しの保」では、はへを、あってでは、ないででは、ないででは、ないでは、ないでは、できなででは、ないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、できないでは、これでは、	○に語続なまるしい○るのででいるのででは、 さてとに、りにエローをでいるでは、 と語と意容分きしい○るの語係るでは、 のは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのででは、 のいるのでは、 のいるでは、 のいでは、 のいるでは、 のいるでは、 のいるでは、 の	の表記,読点の 使い方を習課題に し,学簡単な文 を書こうとして
ほんを よもう	△読みたい本を探して読んだり、読んだ本について友達や先生に話したりして、読書を広げる。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。 ⇒思判表 C(2) イ	み, いろいろ な本があるこ		○積極的に読書 に親しみ, 学習 の見通しを伝え合 で感想を伝え合 おうとしてい る。

ことばを つなごう	2	△言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、つながる言葉を考えて読んだり、書いたりする。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(1)ウ △身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ ■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表 B(1)ウ	を量章でに意句が気表をのい,味のあ付す増中でと葉よとこ,句,使とにるまと語の文っもは語りに彙	○「書くて、文字では、 におやきがまりです。 まい文方ららがまりです。 ないまかまです。 ないまでは、 ない	ことを表す語句 の量を増し, 学 習課題に沿って 読んだり書いた りしようとして
たのしく よもう I あいうえおの うた		△様子を思い浮かべながら、リズムよく音読する。 △音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(I)イ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(I)	付けて音読し		○進んで語のま とまりや言葉の 響きなどに気を 付け,学習の見 通しをもって音
ごじゅうおん	I	△五十音表を見て、これまでに学んだ平仮名の学習を振り返るとともに、五十音表の基本的な特徴に気づく。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(I)ウ	して文や文章		○積極的に平仮 名を読み,今ま での学習を生か して五十音表の 特徴に気づこう としている。
けむりの きしゃ	5	□文章と挿絵を結びつけながら,場面の様子について人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 △長音,拗音,促音,撥音などの表記,助詞の「は」,「へ」及び「を」の使い方,句読点の打ち方,かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また,平仮名及び片仮名を読み,書くとともに,片仮名で書く語の種類を知り,文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(I)ウ △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(I)ク □場面の様子や登場人物の行動など,内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表 $C(I)$ 1 □場面の様子に着目して,登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表 $C(I)$ 2 □文章の内容と自分の体験とを結び付けて,感想をもつこと。 ⇒思判表 $C(I)$ 3	○語のまとま りや言葉の響 きなどに気を 付けて音読し	○「読むこと」 におて,場面 の様子動など, 内容ののる。	の行動など,内 容の大体を捉

のばす おん	2	△長音の読み方と書き方を理解する。	〇長音,拗		○積極的に長音
4370			音,促音,撥		の表記の仕方を
		△音節と文字との関係,アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとと	音などの表		理解し, 学習の
		もに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ	記,助詞の		見通しをもって
		△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の	「は」,		読んだり書いた
		使い方, 句読点の打ち方, かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で	「へ」及び		りしようとして
		使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語	「を」の使い		いる。
		の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ	方, 句読点の		
			打ち方を理解		
			して文や文章		
			の中で使って		
			いる。また,		
			平仮名を読		
			み,書くとと		
せんせい、あのね	2	■話し言葉がそのまま文になることを知り、先生に話しかけるかたちの簡単な	ナに、女や女	○「書くこと」	○進んで主語と
CNUCV (A)V/14	4	■話し言葉がてのまま文になることを知り、元生に話しかりるかだちの間単な 文章を書くとともに、敬体の文章に慣れるようにする。	ける主語と述		び進ん(主語と) 述語との関係に
		ス早と言くこともに、収件のス早に頂作るようにする。	語との関係に	したことや想像	気付こうとし、
		 △長音,拗音,促音,撥音などの表記,助詞の「は」,「へ」及び「を」の			学習の見通しを
		位い方, 句読点の打ち方, かぎ (「」) の使い方を理解して文や文章の中で			もって簡単な文
		使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語	3 °		章を書こうとし
		の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒知技(I)ウ		柄を集めたり確	ている。
		△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒◎知技(I)カ		かめたりして.	(V D 0
		△丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書か		伝えたいことを	
		れた文章に慣れること。 ⇒知技(I)キ		明確にしてい	
		■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集		る。	
		めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(I)		0	
		P			
		■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりする			
		など、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア			
みんなに はなそう	4	◇身近なことや経験したことから話題を決め,必要なことを思い出して,順		○「話すこと・	
		序を考えて話す。	と普通の言葉		な言葉と普通の
					言葉との違いに
		△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(I)カ	を付けて使っ		気を付け,今ま
			ている。		での学習を生か
		れた文章に慣れること。 ⇒◎知技(1)キ		を決め,伝え合	して身近なこと
		◇身近なことや経験したことなどから話題を決め,伝え合うために必要な事		うために必要な	を話そうとして
		柄を選ぶこと。 ⇒◎思判表 A(I)ア		事柄を選んでい	いる。
		◇相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄		る。	
		の順序を考えること。 ⇒思判表 A(I)イ			
		◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中し			
		て聞き, 話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒思判表 A(I)エ			
	1		J	l	

h = 1 / 1 + 3 0			1027 n 4 1 1 4		014 / 1027 0 4
たのしく よもう 2	ı	△様子を思い浮かべながら,リズムよく音読する。	○語のまとま		○進んで語のま
がぎぐげごの う			りや言葉の響		とまりや言葉の
た		△音節と文字との関係,アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとと			響きなどに気を
		もに,姿勢や口形,発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ	付けて音読し		付け,学習の見
		△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(I)	ている。		通しをもって音
		2			読しようとして
よく みて かこう	3	 ■身近なものを観察し,気づいたことを簡単な絵や文で表し,書いたものを読	○言辞には	○「書くこと」	○進んで経験し
a \	3				
		み合って感想を伝え合う。	事物の内容を	において、経験	
		△言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあるこ		したことや想像	
		とに気付くこと。 ⇒◎知技(1)ア	える働きがあ	したことなどか	
		■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け,必要な事柄を集		ら書くことを見	,
		めたり確かめたりして,伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(I)	いている。	付け,必要な事	
		ア		柄を集めたり確	する文章を書こ
		■文章に対する感想を伝え合い,自分の文章の内容や表現のよいところを見		かめたりして,	うとしている。
		付けること。 ⇒思判表B(I)オ		伝えたいことを	
				明確にしてい	
		■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりする		る。	
		など、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表 B(2)ア			
すずめの くらし	6	□問いの文や写真に導かれながら、すずめについて説明した文章を読む。	○長音, 拗	○「読むこと」	○積極的に時間
9 9 8)0) \ \ \ \	0	山向いの人で子具に等かれなから、99のについて武明した人早を読む。			
			音、促音、撥	において、時間	
		△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の	音などの表	的な順序や事柄	
		使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で		の順序などを考	
		使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語	「は」,	えながら、内容	
		の種類を知り, 文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(I)ウ	「へ」及び	の大体を捉えて	
		△文の中における主語と述語との関係に気付くこと。 ⇒知技(I)カ	「を」の使い	いる。	もって分かった
		△読書に親しみ,いろいろな本があることを知ること。 ⇒知技(3)エ	方, 句読点の		ことや思ったこ
		□時間的な順序や事柄の順序などを考えながら,内容の大体を捉えること。	打ち方を理解		とを紹介しよう
		⇒ ◎ 思判表 C (I) ア	して文や文章		としている。
		□文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。 ⇒思判表 C(I)ウ	の中で使って		
		□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表 C	いる。また,		
		(1) オ	平仮名及を読		
		□文章を読んで成じたことや分かったことを共有すること ⇒ 思判表 C(I)			04-1-11
しゃ、しゅ、しょ	2	△拗音や拗長音に注意して、身のまわりから言葉を見つけ、正しく読んだり	〇長音,拗		○積極的に拗音
		書いたりする。	音, 促音, 撥		の表記の仕方を
			音などの表		理解し,学習の
		△音節と文字との関係,アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとと	記,助詞の		見通しをもって
		もに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ	「は」,		読んだり書いた
		△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の	「へ」及び		りしようとして
		使い方, 句読点の打ち方, かぎ (「 」) の使い方を理解して文や文章の中で	「を」の使い		いる。
		使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語			
		の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)ウ	打ち方を理解		
			して文や文章		
		·	1 - 1/1 1/17	1	

たのしく よもう 3	1	△様子を思い浮かべながら,リズムよく音読する。	○語のまとま		○進んで語のま
きゃきゅきょの			りや言葉の響		とまりや言葉の
うた		△音節と文字との関係,アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとと	きなどに気を		響きなどに気を
		もに,姿勢や口形,発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技(1)イ	付けて音読し		付け,学習の見
		△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(I)	ている。		通しをもって音
		7	0 = 1 //	0.5 = 1.5	読しようとして
しらせたい ことを かこう		■身近なできごとや経験から知らせたいことを選び、簡単な文章を書く。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の		○「書くこと」 において,経験 したことや想像	
		使い方, 句読点の打ち方, かぎ (「」) の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また, 平仮名及び片仮名を読み, 書くとともに, 片仮名で書く語	記,助詞の	したことなどか ら書くことを見	
		の種類を知り,文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(I)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け,必要な事柄を集	「へ」及び 「を」の使い	付け,必要な事 柄を集めたり確	及び「を」の使 い方, 句読点の
		めたり確かめたりして,伝えたいことを明確にすること。 ⇒思判表◎B(I)ア	方,句読点の 打ち方を理解	かめたりして, 伝えたいことを	打ち方を理解 し, 学習の見通
		■自分の思いや考えが明確になるように,事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ⇒思判表B(I)イ	して文や文章 の中で使って	明確にしている。	しをもって簡単 な文章を書こう
		■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(I)ウ	いる。		としている。
		■文章に対する感想を伝え合い,自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 ⇒思判表 B(I)オ			
		■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア			
		☆生活科・特別活動:敬体や方言を使ったり,書いたりした文を見直しながら,相手にわかりやすいように書いて知らせる。			
は、を、へ		△助詞の表記と語中の表記とを区別して理解する。	○助詞の 「は」,		○積極的に助詞 の「は」,
		△長音,拗音,促音,撥音などの表記,助詞の「は」,「へ」及び「を」の 使い方,句読点の打ち方,かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で			「へ」及び 「を」の使い方
		使うこと。また,平仮名及び片仮名を読み,書くとともに,片仮名で書く語	方, 句読点の		を理解し, 学習
			打ち方を理解		の見通しをもっ て簡単な文を書
		The state of the s	して文や文章 の中で使って		(間単な又を音) こうとしてい
		■簡単な物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。 ⇒思	いる。また,平仮名を読		る。
としょかんへ いこ	2	△図書館の基本的な利用方法を知り,興味のある本を探したり,紹介し合っ	○読書に親し		○積極的に読書
う		たりする。	み, いろいろ な本があるこ		に親しみ,学習 の見通しをもっ
		△昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして,我が国の伝統的な言	とを知ってい		て本を紹介しよ
		語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア △読書に親しみ,いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ	る。		うとしている。
		□読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え			

おはなしの くに		△挿絵を見ながら昔話などに興味をもち、読書をする。 △昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 ⇒知技(3)ア △読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。 ⇒◎知技(3)エ □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表 C(1)イ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表 C(1)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表 C(1)カ	み, いろいろ な本があるこ と。 (思考力, 判断) (T (B (T (T (T)) (T))	において,場面 の様子や登場人	て本を読もうと
おおきな かぶ	6	□繰り返しの展開を楽しみながら、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読む。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(I) ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判表C(I)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表C(I)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C(I)オ □文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(I)カ □式章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表C(I)カ	りや言葉の響 きなどに気を 付けて音読し ている。		○進子で 様子で で登ななを でで でで でで でで でで でで でで でで でで で
えにっき	4	■身のまわりのできごとや経験したことを、絵と文で表現する。 △長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 →◎知技(1)ウ ■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 →思判表B(1)ア ■自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 →思判表◎B(1)イ ■話と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。 →思判表B(1)ウ ■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。 →思判表B(1)オ ■日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。 →思判表B(2)イ	音などの記している。 をいましている。 では、このでは、のでは、のでは、のでは、のでは、ののでは、のでは、のでは、のでは、のでは	において, 自分 の思いや考えが 明確になるよう に, 事柄の順序	簡単な構成を考 え, 今までの学 習を生かして絵 日記を書こうと

なつの おもいでを はなそう	5	◇相手の話の内容を受けて話したり、自分からすすんで話したりする。	○姿勢やロ 形,発声や発	○「話すこと・ 聞くこと」にお	○積極的に話し
(d' (4 - 1)		 △言葉には,事物の内容を表す働きや,経験したことを伝える働きがあるこ			子が知らせたい ことを落とさな
			話している。	とや経験したこ	
		△音節と文字との関係,アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとと	品している。	となどから話題	
		立自即と父子との関係、アクセンドによる語の意味の違い。ことに式的へとと もに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒ ◎ 知技(I)イ		を決め、伝え合	
		◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆			想を言おうとし
		「		事柄を選んでい	
		↑		る。	((, 2 ,
		の順序を考えること。 ⇒思判表 A(I)イ		ි ං	
		◇伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。		○「話すこと・	
		⇒思判表 A (I)ウ		聞くこと」にお	
		◇話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中し		いて、話し手が	
		て聞き,話の内容を捉えて感想をもつこと。 ⇒◎思判表 A(I)エ		知らせたいこと	
				や自分が聞きた	
かたかなの ことば	2		○片仮名を読		○積極的に片仮
			み、書くとと		名で書く語の種
		△長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の			類を知り,学習
		使い方, 句読点の打ち方, かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で			の見通しをもっ
		使うこと。また,平仮名及び片仮名を読み,書くとともに,片仮名で書く語			て読んだり書い
			や文章の中で		たりしようとし
		△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉に	使っている。		ている。
		は意味による語句のまとまりがあることに気付き,語彙を豊かにすること。			
		⇒知技(I)オ			
けんかした 山	6	□場面の様子を想像しながら,お話を読む楽しさを味わう。	○当該学年に	○「読むこと」	○進んで場面の
			配当されてい	において、場面	様子や登場人物
		△第Ⅰ学年においては、別表の学年別漢字配当表の第Ⅰ学年に配当されてい	る漢字を読ん	の様子や登場人	の行動など、内
			でいる。	物の行動など,	容の大体を捉
		△語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(I)		内容の大体を捉	
		2	りや言葉の響	えている。	しをもって考え
		□場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒◎思判			たことを発表し
		表 C (1) イ	付けて音読し		たり文章にまと
		□場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思			めたりしようと
		判表C(I)エ			している。
		□文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表C			
		(1) オ			
		□文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。 ⇒思判表 C(I)			

(みんなで たのしく よみましょう。)	2	□役割を決めてグループで音読する。 △語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 ⇒◎知技(I) ク □場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 ⇒思判表 C(I)イ □場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 ⇒思判表 C(I)エ □文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 ⇒思判表 C(I)オ	りや言葉の欠い をないて音 がいる。	において, 文章 を読んで感じた ことや分かった	とを共有し,学習の見通しを もって役割を決めて音読しよう としている。
かん字の はじまり	3	△漢字には、絵からできたものとしるしからできたものがあることを理解する。 △第 学年においては、別表の学年別漢字配当表の第 学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(I)エ	○当該字年に配当されている漢字を読んでいる。		○進んで当該れて当該れて当該れて当された当字を引っている。 は、記字でのでは、 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
だれが, たべたので しょう	7		ける主語と述 語との関係に 気付いてい る。 〇語のまとま りや言葉の響		えながら, 内容 の大体を捉え,

たのしかった こと	13	■日常生活の中から書くことを見つけ、簡単な文章を書く。	○長音,拗	○「書くこと」	○進んで経験し
を かこう	'		音,促音,撥	において、経験	
		 △長音,拗音,促音,撥音などの表記,助詞の「は」,「へ」及び「を」の			ことを見付け、
		使い方、句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方を理解して文や文章の中で		したことなどか	
		使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語		ら書くことを見	
		の種類を知り、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(I)ウ	「へ」及び	付け、必要な事	
		■経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集		1	る。
		めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。 ⇒◎思判表B(I)		かめたりして,	
		P	打ち方、かぎ	伝えたいことを	
		■自分の思いや考えが明確になるように,事柄の順序に沿って簡単な構成を		明確にしてい	
		考えること。 ⇒ © 思判表 B(I) イ	い方を理解し	る。	
		■語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるよう	· ·	〇「書くこと」	
		に書き表し方を工夫すること。 ⇒思判表B(I)ウ	中で使ってい	において、自分	
		■文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と	る。	の思いや考えが	
		文との続き方を確かめたりすること。 ⇒思判表B(I)エ		明確になるよう	
		■文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見		に, 事柄の順序	
		付けること。 ⇒思判表B(I)オ		に沿って簡単な	
				構成を考えてい	
		■身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりする		る。	
		など,見聞きしたことを書く活動。 ⇒思判表B(2)ア			
		☆生活科:見つけたことやおもしろかったことなどをメモしておく。			
かぞえうた	2	<u>↑ ※ 4 · + + × 4 / 0 </u>	○当該学年に		○進んで言葉遊
7 (1)			配当されてい		びに親しみ、学
		 △第 学年においては,別表の学年別漢字配当表の第 学年に配当されてい			習の見通しを
		る漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(I)エ	でいる。		もってリズムよ
		△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉に	0		く音読しようと
			れている言葉		している。
		⇒知技()オ	遊びを通し		
		^^ X(1)/3 △長く親しまれている言葉遊びを通して,言葉の豊かさに気付くこと。 ⇒			
		□ 回対(3)イ	かさに気付い		
かぞえよう	3	□○からたまでの漢数字を正しく読み、書く。	○当該学年に		○進んで漢字を
, (,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			配当されてい		読み、学習の見
		 ∆音節と文字との関係,アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとと			通しをもって文
		もに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ⇒知技()イ	でいる。		や文章の中で使
		△第 学年においては、別表の学年別漢字配当表の第 学年に配当されてい			おうとしてい
		る漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。 ⇒◎知技(1)エ			る。
		△身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉に			
		は意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。			
		⇒知技()オ			
			<u> </u>		